木木林

千葉県 TEACCH プログラム研究会
2019年10月26日（土）第104号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発　行 ： 千葉県ＴＥＡＣＣＨプログラム研究会広報部
事務局 ： 千葉県発達障害者支援センターＣＡＳ内 ＴＥＬ ０４３－２２７－８５５７
ホームページ :http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm

令和元年度　第３回　連続セミナー（９月２８日（土））

「当事者からのメッセージ」

～ソルトの場合～

ご自身のエピソードを中心に、支援者ができること、そして関わり方について具体的にお話しいただきました。

「周りの人たちと何かが違う。だが、それが何であるか分からない。何をどうしたらいいのかも分からない。」と、人間関係・コミュニケーションに悩み続けた小学生時代。社会人になり、「アスペルガー症候群」の診断を受け、相談者に出会い、自分自身＆支援で『今後の自分自身を何とかしよう！』とすることに精力を注ぐようになったそうです。

診断のメリットとデメリット

メリット：発達障がいを通じた自己理解
（言葉を字義通りに受け止める、空気を読むのが苦手、人と適切な距離感を取ることが苦手、特化した分野に強い、等）

デメリット：診断を受けたことで将来の不安
（継続就労、周囲と良好な人間関係を築く、恋愛、等）

大学の保健管理センターで受けた面談の支援について

◎「相手との距離感が近く、親しくなりたい度合いが強いこと」を自覚し、「適度な距離感」を取るようにすること。

◎「孤独力」について知り、「一人での時間を充実させる」こと。

⇩

★生活環境の中から自然と学習して克服していくことは困難である。
⇒一つ一つの場面に対して教わり、習ったことを身につけて、生活に中に取り入れる。

★「人と会いたい気持ちのエネルギー」を「人と適度な距離を保ち、孤独力を楽しむためのエネルギー」に意識して変えて、自分のやるべき仕事・生活を充実できるように心がける。

強みに焦点を当てて伸ばす支援

自分の良いところ、強みの認識・自覚こそが「アイデンティティの確立」につながる。また、自分自身の居場所、自信、自分らしさを築くことにつながる。

●本人の強み・特技を一緒に見つけて本人に自信をつけていく支援。

●強み・特技を活かした視野を広げていくスタイルの勉強方法の確立、仕事（社会参加）につなげていくためのスキルの支援。

●学校・職場に本人の強みを理解してもらい、本人の強みを発揮できる環境を整え、自尊心向上を図る・生きづらさ解消の方法を一緒に模索する支援。

ソルト氏の体験を基に、個々の障害特性を十分理解し、「苦手な部分のサポートをする支援」に加えて、具体的に助言をしてくれるような「長期的な支援の提供」が必要なことを改めて学びました。貴重なお話をありがとうございました。

台風 15 号が去った後の私たちの生活

【いしい家の場合】

我が家はニュースでも取り上げられた多古町にあるのですが、奇跡的に自宅は半日のみの停電だけで済みました。しかし、町内にある娘の通所施設は、被害が大きく、翌日停電・断水の中、1 日だけは利用できたのですが、その後の利用できなくなってしまい、自宅待機生活が続きました。娘本人は、ライフラインのある自宅だったので衣食住は確保され、混乱することなく過ごせました。が、母の私は、復旧の見通しが立たない娘と 2 人だけの自宅待機生活に心折れ、5 日目から地域の新町ハウスにある寺子屋に母娘で自主通所？させていただきました。母は居場所があることにホッとし、娘もリュックにお気に入り DVD とおやつを入れ、嫌がらずに行くことができたので、通所施設が再開するまでお世話になりました。地域のつながり・人のつながりのあったかさを実感した 2 週間でした。

【東日本大震災の経験が生かされた重度の知的障害を伴う自閉症の息子の場合】

東日本大震災の経験が本人の心構えになり、ある程度の生活の不自由な環境の見通しができ落ち着いて過ごせました。1 日目は、家の雨漏りがひどく片付けに追われている私に協力してくれました。お気に入りのタブレットや本を見たり、また息子を実家の倒木の片付けに頼み親戚みんなで集まって、作業やごはんを食べたりと賑やかに過ごしたことも楽しそうでした。義姉の家は停電しなかったので、洗濯やごはん作りに一緒に連れて行き、パソコンをしたり DVD を見たり、お風呂にも入れました。夜は、電気のない生活でも、東日本大震災の時に使った明るめのランタンを使うものと思っていたようで、ランタンを部屋に置き、いつものように布団の周りに本を並べて楽しんで 12 時頃には寝ていました。施設は、停電と断水で長い間利用できませんでしたが、家族の一員として、みんなの手伝いをする毎日が充実しているようでした。（おの家）

【たきもと家の場合】

わが家は富里市、樹木が多く農耕地帯。今回の台風では 1 週間の停電と断水でした。東日本大震災では、計画停電があったものの 1 週間は初めての経験でした。最重度知的障害と ASD の特性を持つ生活介護通園の兄弟 2 人、家庭での大部分の余暇をインターネットやゲーム機に頼っていたのでどうなることかと思いましたが、バッテリーがなくなり、充電を要求してきました。「電気終わりです」と伝えると混乱を起こすことなく、その時の環境でできるパズルなどを探し、兄弟で始めました。学生時代から「終わり」を意識して、教えてきたことが生きた瞬間でした。

〔写真：懐中電灯の下で DS、傍にパズル〕

令和元年度　ＴＥＡＣＣＨプログラム研究会　第５回連続セミナーのお知らせ

日時：　令和元年１２月２１日（土）　１３：３０～１６：３０（１３：００受付開始）

内容：　「成人期の支援」（仮題）

講師：　米澤　巧美　氏（社会福祉法人横浜やまびこの里　横浜市発達障害者支援センター）

会場：　千葉市文化センター５階　セミナー室

（編集後記）今私たちにできることは、目の前の子供達へ余暇の過ごし方を伝えること、アクシデントにも対応できるようにすること、コ

ミュニケーションスキルを高めること…などなど、課題は山積みだなと、心引き締まる思いでした。（島尾）